

みらいのかぞくプロジェクト
ワークショップ型授業
「あなたはどこまでやりますか？」
～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～
埼玉県立上尾鷹の台高等学校でワークショップを実施
2016年10月27日(木)

にっぽんかがくみらいかん
日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、2016年10月27日(木)に、「みらいのかぞくプロジェクト」の一環として、埼玉県立上尾鷹の台高等学校において、1年生の全生徒を対象にしたワークショップ型授業「あなたはどこまでやりますか?～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」を実施します。

ゲノム編集は、狙った遺伝子を自在に改変する技術です。従来の遺伝子組み換え技術より格段に確実に効率がよく、人への応用も現実味を帯びてきました。特にヒトの受精卵に応用すれば、遺伝病の完治につながるとも考えられています。受精卵に行われた場合、その影響は一代限りではなく子々孫々に受け継がれ、結果的には人類全体に及ぶ可能性があります。そしてゲノム編集を受ける「当事者」は、まだ生まれていない子どもであるため、その子の人権をどう守るか、という課題もあります。病気の治療と能力増強との線引きも悩ましい問題です。このように多くの課題がある「ヒト受精卵へのゲノム編集」をどのように向きあうかは、社会全体で考えていく必要があります。

こうした背景をふまえて、日本科学未来館では、高校生や大学生を対象とした「ヒト受精卵へのゲノム編集」をテーマとしたワークショップ型授業を実施し、これからの社会をになう学生たちに、一つのテーマについても多様な意見があること、自分の意見を明確に伝える必要性、そして、多様な意見がありつつも、合意形成を行ってルール作りをしなければならないということを実感していただきたいと考えています。また、学習プログラム開発の一環として、「ヒト受精卵へのゲノム編集」の課題をどのように学生に伝えたら良いのか、どのようにしたらこれらの課題を「自分のこと」として考えてもらえるのかを探り、さらなる学習プログラムの開発に活かしたいと思えます。

【概要】

タイトル ワークショップ型授業「あなたはどこまでやりますか?～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」
日時 2016年10月27日(木) 13:35～15:25(5時限、6時限)
会場 埼玉県立上尾鷹の台高等学校 体育館(住所:埼玉県上尾市原市 2800番地)
対象 埼玉県立上尾鷹の台高等学校 1年生全生徒(237名)
主催 日本科学未来館/埼玉県立上尾鷹の台高等学校
講師 樋江井 哲郎(日本科学未来館 科学コミュニケーター)
※当日の詳しいプログラムは本リリース2枚目をご確認ください。

みらいのかぞくプロジェクトに関するお問い合わせ先	取材に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikan.jst.go.jp TEL: 03-3570-9192 / FAX: 03-3570-9150	埼玉県立上尾鷹の台高等学校 〒362-0021 埼玉県上尾市原市2800番地 TEL: 048-722-1246 / FAX: 048-720-1013 担当: 若林 剛 (理科教諭)

※取材ご希望の場合は、10月26日(水)正午までにお知らせください。

ワークショップ型授業「あなたはどこまでやりますか？～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」
〈10月27日(木)実施プログラム〉

①科学コミュニケーターによるレクチャー(15分)

「ヒト受精卵へのゲノム編集」とはどのような技術なのか、どのような課題(安全面、倫理面)があるのかについてお話しします。

②ワークショップ(90分)

生徒同士でグループをつくり(4～5名×48グループ)、①の内容をふまえて、「ヒト受精卵に対するゲノム編集を行うべきか？行わないべきか？行うとしたらどこまで許容するのか？」について、個々人の意見共有から、実社会を模した合意形成に至るワークショップを行います。

③事後の成果共有

ワークショップ後、ワークシートを廊下などに掲示し、他チームのアイデアを見られるようにします。

「みらいのかぞくプロジェクト」関連イベント

ワークショップ&意見交換会「ヒト受精卵へのゲノム編集」を皆で考えていくために」

日本科学未来館とその周辺施設で開催される科学イベント「サイエンスアゴラ2016」の出展企画として、ワークショップ&意見交換会「ヒト受精卵へのゲノム編集」を皆で考えていくために」を開催します。このイベントでは、高校・大学の教員の方や科学館の職員の方を対象として、近年急速に発展しているゲノム編集技術について考えるイベントです。参加者同士で、高校生・大学生対象のワークショップ「あなたはどこまでやりますか？～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」を体験したあと、意見交換を行います。先端科学技術に関わる生命倫理上の問題や人権問題を、どのように高校生や大学生に伝えたら良いのか、どのようにすればこれらの課題を「自分のこと」として考えてもらえるのかを探っていきます。

日時:2016年11月6日(日)10:30～15:00(休憩 12:00～13:00)

場所:日本科学未来館 7階 会議室1

対象:高校・大学の教員の方、科学館職員の方、ゲノム編集に関するワークショップを実施してみたい一般の方

定員:30名

参加方法:WEBによる申込、先着順

参加費:無料

詳細 UEL: <http://www.miraikan.jst.go.jp/event/1609261720670.html>

みらいのかぞくプロジェクトとは

「一般的な家族」とはどのようなものでしょうか。近年、価値観の多様化や科学技術の発達などによって、さまざまな新しい「家族のかたち」が現れてきています。これまでの養子縁組や事実婚などに加え、この数年、同性婚を社会的に認めるかどうかという議論が世界中で活発になり、日本でも複数の自治体が同姓カップルをパートナーとして「認定」する条件を制定しました。一方、家族のかたちやあり方を大きく変えうる新しい科学技術が生まれつつあります。幹細胞技術により、同性同士でお互いの遺伝子を受け継ぐ子どもをもうけたり、新しい遺伝子操作技術「ゲノム編集」により遺伝情報を書き換えたりすることが技術的には可能になるかもしれません。このような状況のもと、家族のかたちやあり方に関わ



る科学技術について、すでに実用化されている技術も、いずれは実用化が可能とみられる技術も、その使い方やメリットデメリット(リスク)を社会全体で考えて行く必要があります。このような問題について、科学技術がもたらす変化や可能性を切り口に、家族に関わる社会学・文化人類学的側面や制度のあり方、個々人の心持ちも含めて議論することにより、多様性を認めつつ皆が幸せに暮らせる社会に向かうきっかけをつくっていくのが、このプロジェクトのミッションです。